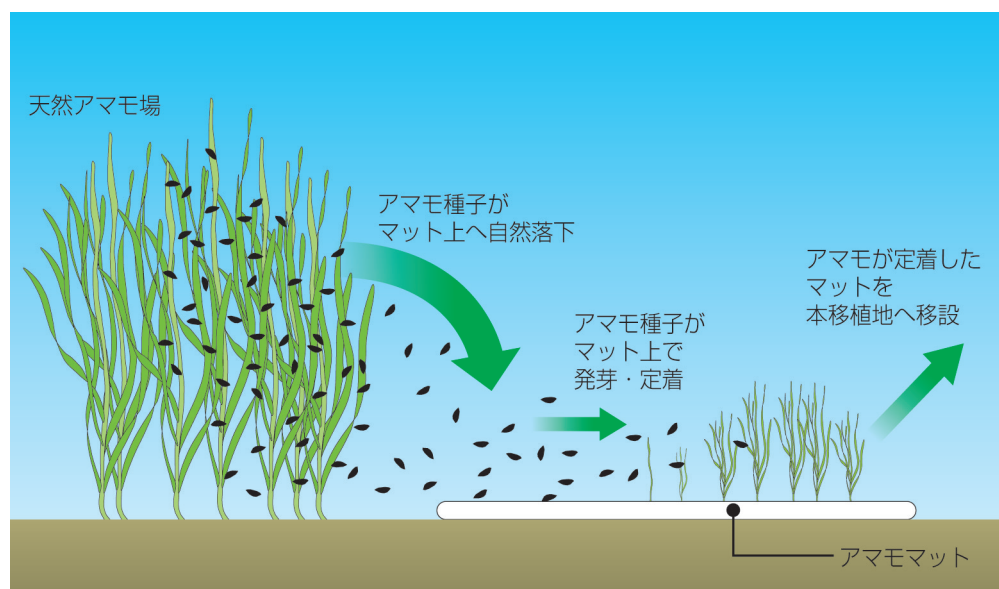


播種・株植が不要なアマモ移植方法の現地実験

高山 百合子・上野 成三・勝井 秀博

Field Study of a Seagrass Planting Method without Sowing Seed and Planting Roots.

Yuriko TAKAYAMA ,Seizo UENO and Hidehiro KATSUI



播種・株植が不要なアマモ移植法の概念図



表面



裏面

アマモが定着したマット

研究の目的

沿岸に広がるアマモ場は、魚類の産卵場・餌場、稚魚の生育場など、海洋生物の重要な生活の場です。さらに、海域の栄養塩を吸収し、酸素を供給するという直接的なアマモの海水浄化機能も認識されつつあります。しかしながら、近年、埋立などの開発行為や海域の富栄養化に伴う水質悪化などにより、多くのアマモ場が消失しています。こうした背景の中、全国的にアマモ場の移植事例が増大しているものの、その移植方法は多大な労力を要する播種法や株植法などに限定されています。そこで、本研究では、効率的なアマモ場造成の実現を目指し、播種・株植が不要な新しいアマモ移植手法を提案しました。

技術の説明

本手法では、天然のアマモ場にマットを敷設し、マット上にアマモ種子が自然落下・発芽することによりアマモを定着させ、このマットを本移植地へ移設します。また、従来方法ではアマモ移植のための大規模な株採取が天然のアマモ場にダメージを与えるなどの問題があったのに対して、既存のアマモ場を破壊することなく、かつ効率よくマットにアマモを定着させてアマモ移植を可能とする方法です。

主な結論

従来のアマモ移植技術における、多大な労力、天然アマモ場の破壊などの問題を解決した播種・株植が不要な新しいアマモ移植方法を提案しました。英虞湾立神浦における本手法の実証実験により、天然のアマモ場にマットを敷設するだけで、高密度にアマモをマットに定着できることが実証できました。